

【子どものやけど・感電】

子どものやけどの多くは家庭内で起こっています。やけどは防げる事故です。大事にいたる前に事故を招くものがないか、家の中をチェックしてみましょう。

原因

味噌汁、麺類などの食品、ストーブ、ヒーター、アイロン、電気ケトル、炊飯器などです。



加湿器・炊飯器の蒸気

蒸気はあっという間に消える。子どもにとっては不思議な物に見えて興味津々！思わず子どもが手を出したくなります。子どもは蒸気でのやけども多いです。蒸気の吹き出し口に近づかないように置き場所に注意しましょう。

アイロン・ストーブ・ヒーター

アイロン、ストーブ、ヒーターなどもスイッチやライトが付いていて興味を引きます。ストーブ、ヒーターには安全柵の設置やアイロンは使用后すぐに片づけましょう。



テーブルクロス・テーブルの上

テーブルクロスは引っ張るとテーブル上の物が落下するので味噌汁や麺類などをかぶる事があります。テーブルクロスは使用しない方が良いでしょう。やけどのおそれがある熱いものはテーブルの上の奥、子どもの手が届くところには置かないようにしましょう。

コンセント

使用していないコンセントには感電防止のキャップ（カバー）をしましょう。



★ やけどをした時の応急処置 ★

子どもの皮膚は薄くて弱いので、より低い温度で、より深いやけどになりやすく注意が必要です。

【見分け方】

- I 度：皮膚が赤くなる
- II 度：水泡ができる
- III 度：白色化または黒こげになる



【やけどの手当】

- ・ **すぐに流水や溜めた水で10分以上冷やす。**

(やけどの進行を防ぎ、痛みを和らげる効果があります。やけどが広範囲に及ぶ場合、低体温になるおそれがあるので、30分以上冷やすのはやめましょう)

- ・ **服や靴下の上から熱湯をかぶった場合は無理に脱がさず、服や靴下の上から流水で冷やす。**

(無理に脱がせると皮膚まではがれてしまい跡が残ってしまいます)

- ・ **清潔なガーゼでやけどした部分をふんわりくすみ、すぐに受診しましょう。**

(水ぶくれはつぶしたり、やぶらないようにしましょう)

※広範囲のやけどは痛みが激しいのでショックを起こし、意識がなくなる事もあるので、救急車を要請しましょう。

【低温やけど】も見逃さない！

●電気カーペットやこたつ、湯たんぽやカイロなど、比較的、低い温度のものに長時間、同じ場所にあてていると『低温やけど』を起こす事があります。見た目以上にやけどが皮膚の奥深くまで達している事もあるので注意が必要です。